

令和元年8月5日

常陸太田市議会議長 成井 小太郎 様

常陸太田市議会

議会報告・意見交換会 班代表 成井 小太郎

「常陸太田市議会報告・意見交換会」報告書【里美地区】

1. 日 時

令和元年7月3日（水）午後7時から

2. 開催場所

里美文化センター 大集会室

3. 報告・意見交換会対応議員

- ①成井 小太郎（議長）②高星 勝幸（副議長・広報委員長）③菊池 伸也（総務委員長）
- ④藤田 謙二（産業建設委員長）⑤諏訪 一則（文教民生副委員長）
- ⑥菊池 勝美（産業建設副委員長）⑦深谷 秀峰（文教民生委員）
- ⑧益子 慎哉（産業建設委員）⑨小室 信隆（文教民生委員）

4. 参加者数 18人

5. 説明資料

別添 説明資料のとおり

6. 概要（総括）

広報委員長の進行により、出席議員の紹介、議長あいさつの後、議会報告・意見交換会に入った。

議会報告では、各常任委員会から平成30年度の活動報告（各常任委員長又は副委員長）を行った。

その後、文教民生委員会からの報告に対し、地域コミュニティの設立状況や今後の展開に対する質問等が出された。

続いて、意見交換会のテーマである「商業と観光の振興について資料に基づき説明（産業建設委員長）を行った後、2班に分かれて参加者と意見交換を行った。その後、各班から出された主な意見の発表を行い、今後の議会活動の議論・政策形成につなげていくこととし、最後に広報委員長が閉会に際しお礼を述べ終了した。

7. 意見・提起等

別添 議会報告・意見交換会における質疑応答・意見交換の内容のとおり

議会報告・意見交換会 活動報告等に対する質疑応答（要約）

【R 1.7.3 里美地区】

◎総務委員会関係

特になし

◎文教民生委員会関係

問 1

地域コミュニティの進捗状況と、委員会報告中にあったジェネリック医薬品の普及率はなぜ低いのか。

回答 1

地域コミュニティについては、現在久米，高倉，小里，賀美，天下野，金郷6か所で行っております。ジェネリック医薬品については、患者本人が医者や調剤薬局へジェネリック医薬品を希望すると申し出ないと変わらない。

問 2

地域コミュニティについて、6つのコミュニティが設立されているということだが、常陸太田市として全体でいくつのコミュニティを設立する予定なのか。

回答 2

19を目指しております。

問 3

今、市全体で町会長が130人もいる。それが19人になり、経費が減ることなのか。そのメリットと効果を教えていただきたい。

回答 3

19人に減らすということではない。コミュニティは町会と違う。コミュニティを19か所にまとめるとうということ。

メリットと効果については、例えば常陸太田地区は16町会あり、16人町会長がいる。この町会長をもってコミュニティを運営してもらおうということ。メリットデメリットについては、それぞれ運営の仕方によって変わってくると思う。

問4

コミュニティのあり方と今後の展開について。

回答4

高齢化が進み、若い人たちが減少していく中で、組織が大きくなれば、関心がある方たちが集まり、そこでいろいろな案も出る。行政もバックアップしてくれるので、今まで町会でできなかった事業ができるようになる。私の地区の高倉は、地域がいきいきとして、結果的に設立して良かったと思っています。人口が減少している地域ではコミュニティは大切だと思います。

問5

町会は消滅してしまうのか。

回答5

コミュニティの根底には将来推定人口35,000人を想定しており、将来、町会が運営できなくなる前にコミュニティを作ることが発端だったと思います。コミュニティの中には色々な組織団体があり、町会もその中の1つである。コミュニティができたから、町会組織がなくなるということはない。

問（要望）

コミュニティについて、明確な方針があれば市民も協力すると思う。現状は少ない人数の中仕事だけが増えたような気がする。

◎産業建設委員会関係

特になし

「商業と観光の振興について」の各班から出された主な意見（要約）

里美地区A班

○市内にたくさん観光施設があるが、各地区目玉になるものを一つに絞り、重点的な予算配分とPRを行い、集客力を高める必要があるのではないか。

○里美牧場（プラトー里美）は地域の財産である。桜や市の花である「やまぶき」などを植えてお客さんをお呼びすべきである。

○塩の道や滝めぐりツアーなどを旅行会社と連携して行えばお客さんも来てくれるし、地域の活性化につながるのではないか。

里美地区B班

○星空観察会や塩の道のハイキングコース等、四季折々の自然豊かな良さをPRすれば工夫次第でお客さんが来ると思う。

○ぬく森の湯はリニューアルして施設はきれいになったが、食事は自分で運ばなければならない、サービスが低下してしまった。高齢化が進んでいる中で逆効果ではないか。

○プラトーさとみに行けば「これができる」というものを作る必要がある。他ではやっていないものを考えていくべきであり、ターゲットを絞った事業展開も必要だ。